HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 献辞 |
| Author(s) | 町野, 和夫 |
| Citation | 經濟學研究, 58(3), v-vi |
| Issue Date | 2008-12-11 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/35092 |
| Type | bulletin (article) |
| File Information | kenji.pdf |

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# 献　辞

佐々木隆生教授は，2009 年 3 月 31 日付けをもって定年退職される。教授は永年にわたり本学部の学生，大学院生の教育指導にあたられるとともに，多くの研究成果を挙げられ，北海道大学とわが大学院経済学研究科・経済学部の発展のために多大の貢献をなされた。この功績に報いるため，本誌を教授の退任記念号として献呈したい。

教授は 1945 年岩手県盛岡市に生まれ，ご本人によると「典型的な岩手県人」で「旧南部藩の歴史と風土を背負って育った」そうで，ご家族と風土から近代化への憧憬を継承し，戦前のリベラリズム，「戦後啓蒙」がイデオロギー的な土壌となり，そこに「実存主義」が植えられ，ついでマルクス主義が接木されたとおっしゃっている。読書好きで中学・高校では哲学や文学にのめりこんでいたものの，高校卒業直前に雑誌『思想』の特集「恐慌」を読んでから経済学が面白くなり，東北学院大学でも景気循環論，恐慌論をテーマにされた。大学では「学生運動」で大学 4 年に「処分」を受け，この「処分」は後に裁判で「撤回」となったが，就職が難しくなり東北大学の大学院に進んだというのがご本人の弁である。東北大学では，指導教官の村岡俊三先生，それに原田三郎先生の指導を受けられ，東北大の助手を経て 1977 年 2 月に講師として北海道大学経済学部に赴任された。その後 1978 年 4 月に助教授，1989 年 7 月に教授に就任され，2009 年 3 月をもって退職されるまで 32 年間，北海道大学の教育研究に携わってこられた。

教授の教育研究活動や大学の管理運営に関わるご活躍はとてもこの紙面で紹介しきれないので，それぞれの業績について要約してご紹介する。まず研究面では，1970 年代から我が国の国際資本移動研究を主導され，ご著書『国際資本移動の政治経済学』（藤原書店，1994 年）で国際資本移動論の経済学史的考察，19 世紀から 20 世紀に及ぶイギリス国際資本移動の歴史的実証研究，リカーディアン・モデルの再解釈による国際資本移動についての分析的理論展開を含む包括的な研究を問われ（1994 年には東北大学より経済学博士号を授与される），それと同時にパシネッティ型の構造モデルとドーンブッシュ・フィッシャー・サミュエルソンの連続多数財リカーディアン・モデルに基づく国際経済学の研究も進められた。また，戦後の IMF＝GATT 体制の「国際協調」の視点からの再解釈として，1970 年代以後の構造的変化に対応する G7 等のレジームによる世界経済管理の必然性と特質を分析された。さらに，中村研一教授（北海道大学法学研究科）との共著『ヨーロッパ統合の脱神話化』（ミネルヴァ書房，1994 年）に代表される，国際政治学と国際経済学・世界経済論を統合してのヨーロッパ統合論を提起された。90 年代末からはじまり今日なお執筆中の『ステイトとネイション』に見られる経済学，法制史，政治学，社会学等を包括した近代社会システムの解明，という研究も続行中である。

この間 1990 年 9 月から翌年 8 月まではアメリカのプリンストン大学国際研究センター客員研究員として活動され，ローマ大学などヨーロッパの大学との研究交流もヨーロッパ進化経済学会の会員として進めてこられた。また，「軍縮を考えるエコノミストの会 Economists for Peace and Security」に創設以来参加されるなど様々な学会でご活躍されているが，とくに国際経済学会と日本 EU 学会では現在も理事として両学会の指導的役割を担われている。

教育面では，経済学部の「世界経済論」，その後「国際経済学」及び「政治経済学Ⅱ」を担当されたが，同時に「ヨーロッパ経済論」，「アメリカ経済論」も担当された。また全学教育においては

長く「平和の学際的研究」を担当されたほか，「戦争と平和の政治経済学」などを担当された。経済学部では 30 期にわたって演習を担当され，大学院では多くの研究者を養成された。その結果，佐々木ゼミからは国内では九州大学，東北大学をはじめとする国立大学や私立大学の教員を多数輩出している。また 15 カ国 40 名を超える留学生のうち 5 名以上の博士号取得者を養成され，卒業生はユトレヒト大学助教授など一線の研究者として活躍している。その他，本学の「日本文化・日本事情」の留学生向け講義を担当されるなど，「国際交流科目」の開設をリードされてきた。

管理運営面では，本学に赴任以来，多くの全学の委員会等に参加され，経済学部評議員，経済学科長などを務められたが，2007 年度から大学院公共政策学連携研究部長（公共政策大学院長），2008 年度から北海道大学サステナビリティ学教育研究センター長に就任されている。また，2000－03 年度に入学者選抜制度調査委員会委員長，2004－06 年度にアドミッションセンター副センター長として学内の入学者選抜制度改革等に取り組まれ，2003 年度から総長補佐，法人化後は役員補佐として研究・教育面での全学の改革をリードされてきた。全国的な場面でも，2003 年に国立大学協会第 2 常置委員会専門委員に就任されて以来，各種委員を歴任され国立大学の入学者選抜制度改革を主導されてきた。同時に大学入試センター改革，国公私大を含む大学入学者選抜制度改革を今日まで続けられている。

このように佐々木隆生教授は，研究者として優れた業績をあげられ学術の発展・振興に寄与されたほか，教育者としても優秀な人材を数多く世に送り出され，また，大学行政や日本の高等教育行政におけるご功績にもまことに顕著なものがある。

高校時代はサッカー部のレギュラー，その後はオートバイや登山，45 歳からはテニスも始められ，まだ若々しい佐々木教授が定年を迎えられ本学を去られることは，経済学的に効率的な資源配分ではなく残念としか言いようがない。今は本研究科に対する教授の多大なご貢献に感謝すると同時に，これまでにも増して多方面でご活躍されることを祈念するのみである。

2008 年 12 月

北海道大学大学院経済学研究科長　　町　野　和　夫